

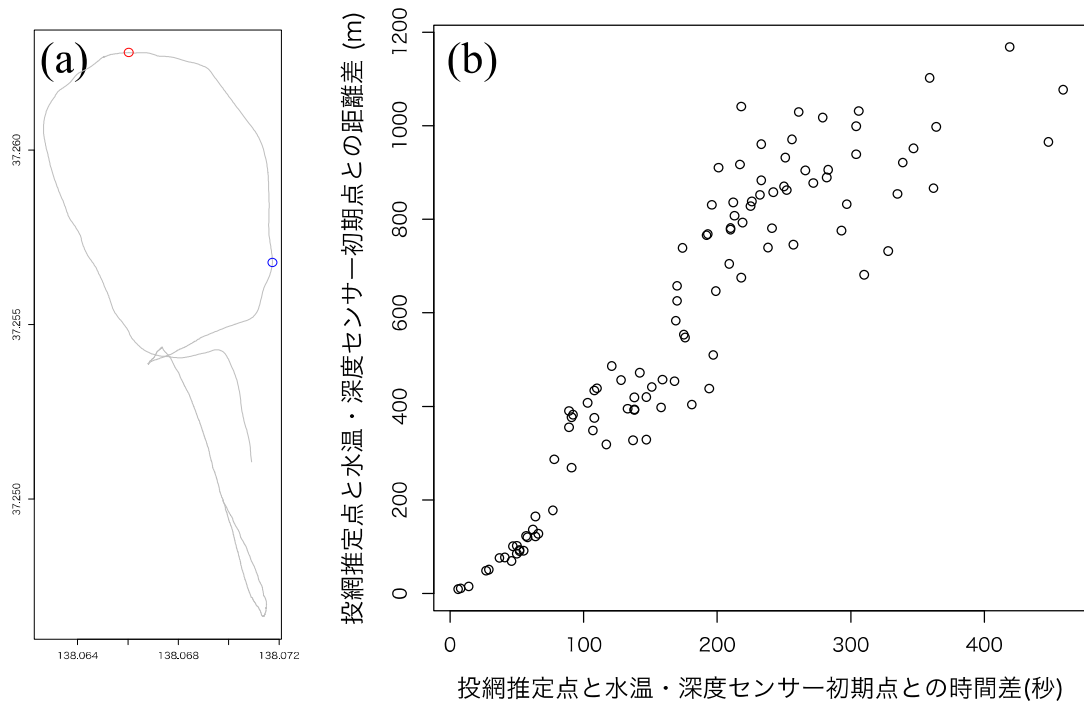


図5: 推定された投網位置による水温・深度センサーの位置情報の補正および

二つの位置情報の差

(a) 推定された投網位置(赤丸)と補正前の水温・深度センサーの位置情報(青丸)の例。縦軸は緯度、横軸は経度であり、灰色線は航跡を表す。この例では、直線距離で 807m、時間にして 213 秒の差があった。(b) 推定された投網位置と水温・深度センサーの位置情報の直線距離差および時間差の関係。

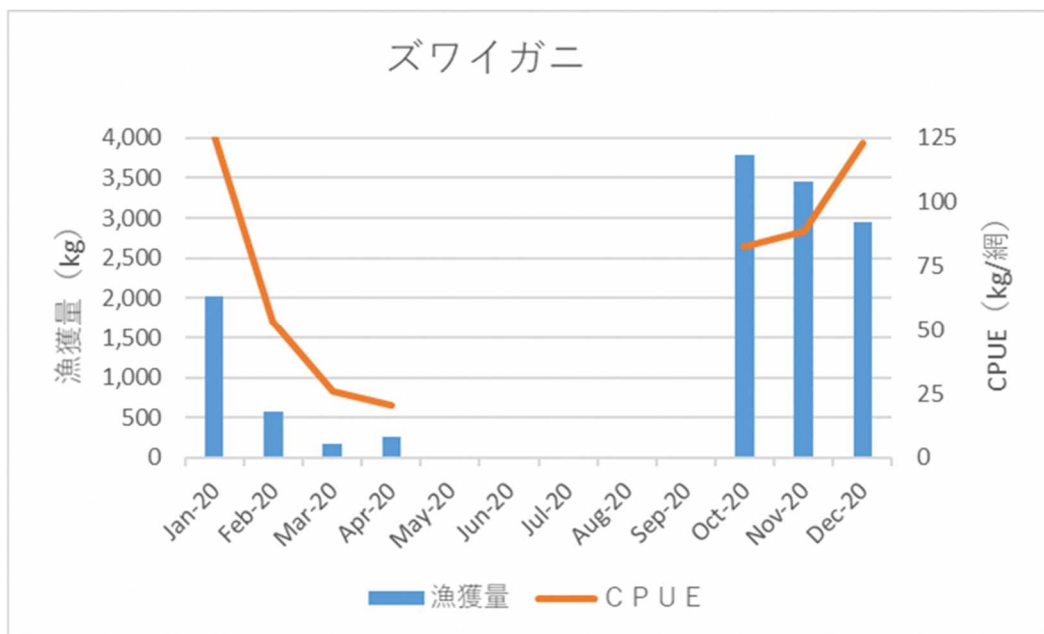


図6:新潟県下越地区におけるズワイガニ月別漁獲量および CPUE

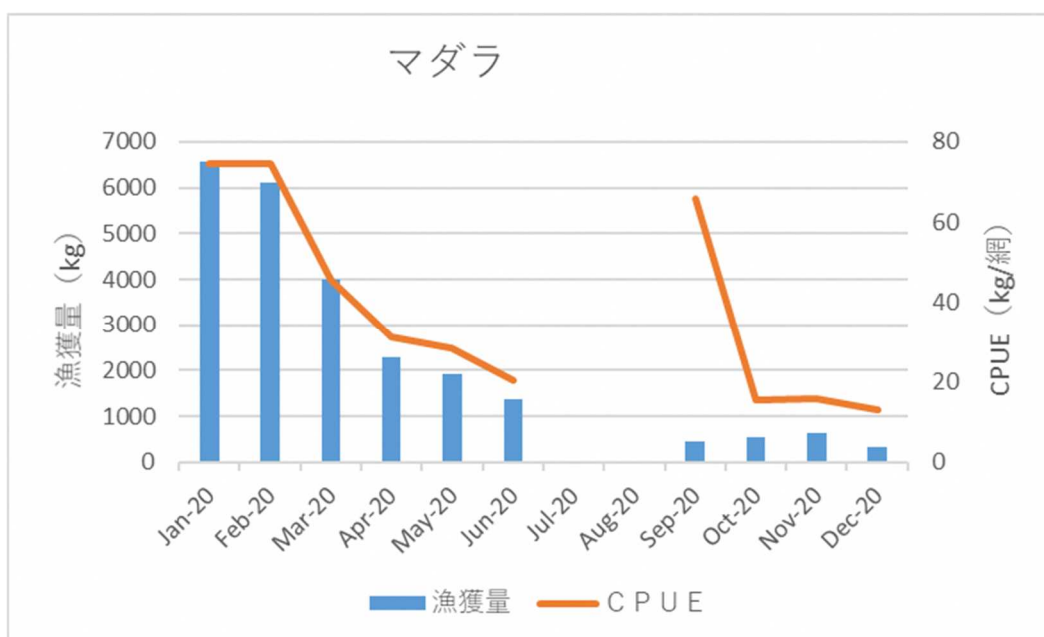


図7:新潟県下越地区におけるマダラ月別漁獲量および CPUE

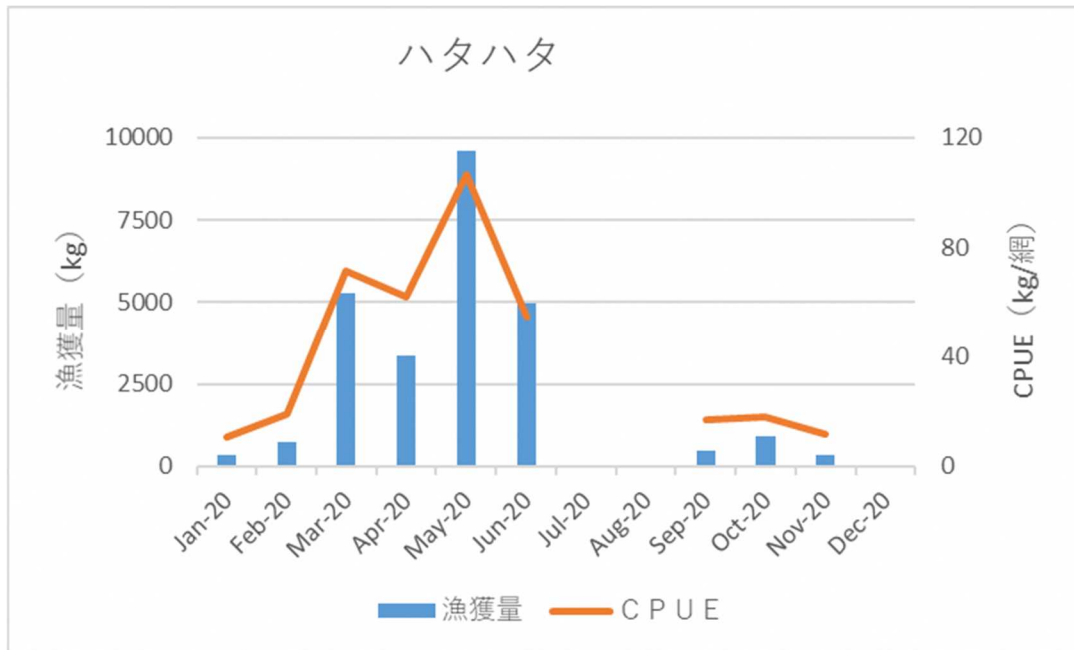


図8:新潟県下越地区におけるハタハタ月別漁獲量および CPUE

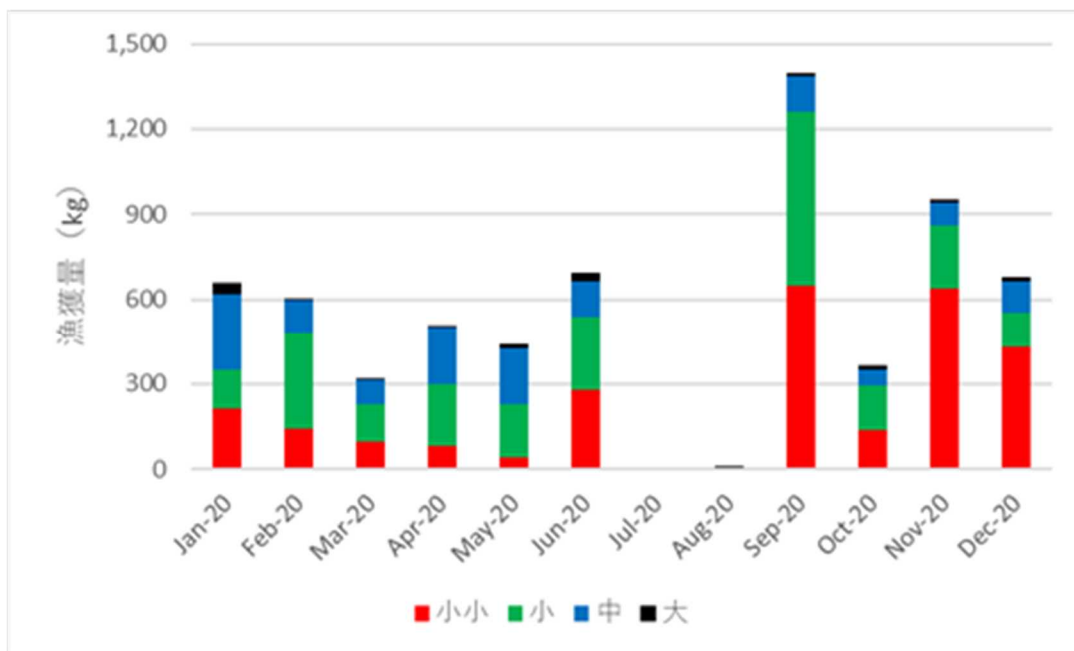


図9:新潟県下越地区の標本船 5 隻の月別銘柄別アカムツ漁獲量

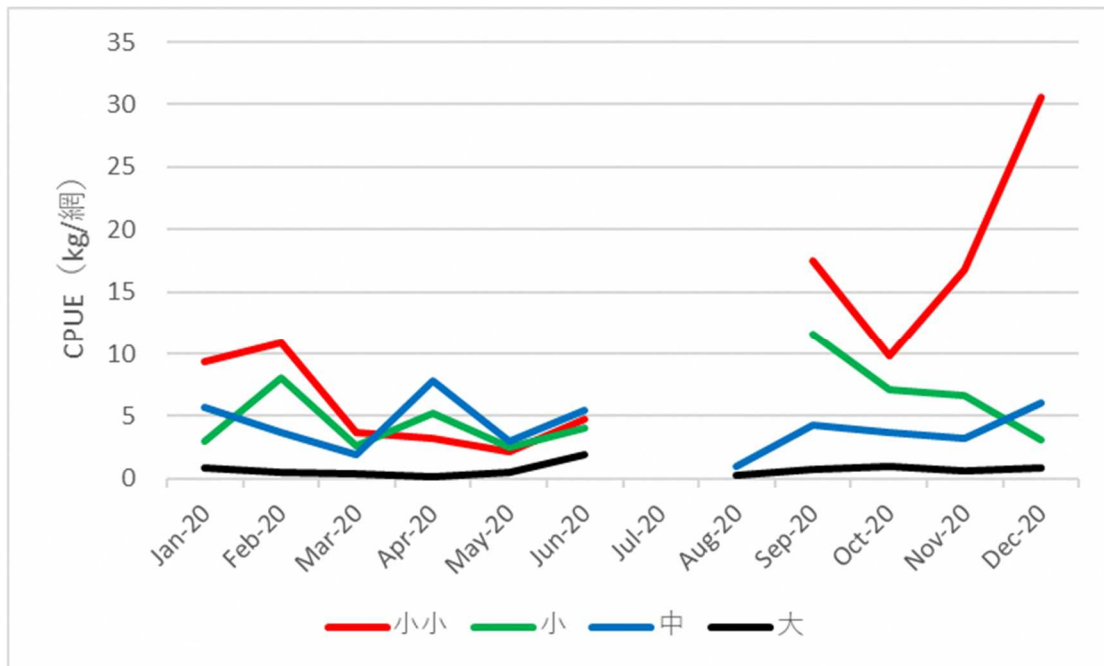


図10:新潟県下越地区の標本船 5 隻の月別銘柄別アカムツ CPUE

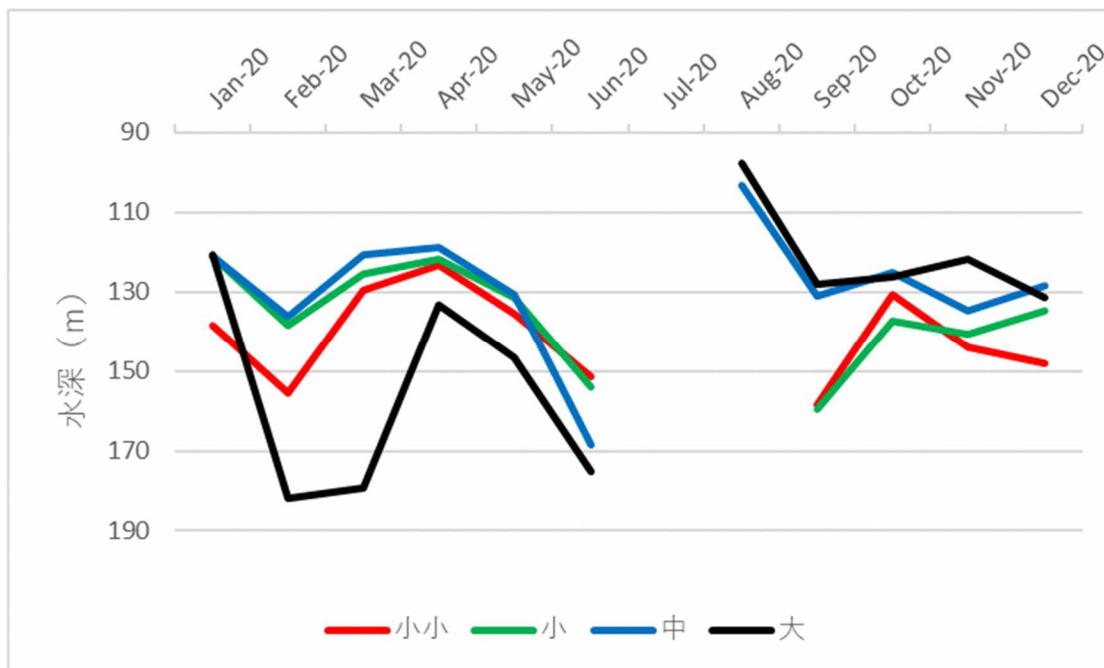


図11:新潟県下越地区の標本船 5 隻の月別銘柄別アカムツ入網平均水深

【実施に当たっての問題点】

- ・水揚げ情報収集では、魚種名の確認が不十分になる可能性もあり、データ入力をしている漁協職員との聞き取りを少し意識して行うことが必要である。
- ・漁獲情報収集では、1人操業の小型船へのデータ収集の協力依頼の際、これまで以上に丁寧に相談を繰り返し、操業状況の把握に努めることが不可欠である。
- ・漁獲情報と水温情報の両方を用いた解析は、モニタリング体制の現状や蓄積データの性質をよく踏まえ、柔軟に工夫する必要がある。
- ・情報の有効活用については、消極的な地域もまだ多いとともに、積極的な地域でも網羅的な想定のもとに協議ができているわけではない。このような現状を十分に認識して協議を続けることが重要である。

【資源調査評価事業に受け渡す事項】

日本海北部海域においては、従来資源評価対象種のズワイガニ、ニギス、ハタハタ、旧動向種のアカムツのサイズ別もしくは銘柄別 CPUE (kg/網)、令和2年度新評価対象種のハツメ、チダイ、ケガニ、令和3年度新評価対象種のアラ、ノロゲンゲ、マフグ、トヤマエビおよび低利用魚等の CPUE (kg/網)、ならびに漁場の底水温情報などが、新たに収集され始めた。次年度以降の資源評価事業で継続して調査することを希望する。

【成果の発表】

- (1) 甲本亮太 (2020) 沿岸漁業を情報で活性化する取組－秋田県の進捗状況－, 令和2年度日本海ブロック資源評価漁船活用型調査・NW事業日本海北部合同検討会, 新潟市, 2020年11月12-13日.
- (2) 甲本亮太 (2020) 地域漁業をつくり育てよう!～「つくり育てる漁業」の反省を踏まえて～, 令和2年度八峰町地域活性化懇談会, 秋田県八峰町, 2020年12月25日.
- (3) 甲本亮太・福田姫子 (2020) 秋田県沿岸におけるアカアマダイ漁獲量の変化, 日本海ブロック資源評価担当者会議報告(令和2年), 16-18.
- (4) 白川北斗 (2020) 漁船の位置情報等から予測する投網位置の精度と課題, 令和2年度日本海ブロック資源評価漁船活用型調査・NW事業日本海北部合同検討会, 新潟市, 2020年11月12-13日.
- (5) 元林裕仁・瀬戸久武・手賀太郎・藤原 邦浩 (2020) 漁船の位置情報等から予測する投網位置の精度と課題, 令和2年度日本海ブロック資源評価漁船活用型調査・NW事業日本海北部合同検討会, 新潟市, 2020年11月12-13日.
- (6) 藤原邦浩 (2020) 2020年漁期ハタハタ最新漁況, 令和2年度日本海ブロック資源評価漁船活用型調査・NW事業日本海北部合同検討会, 新潟市, 2020年11月12-13日.

- (7) 藤原邦浩 (2021) 日本海において特異的漁況をみせた魚たち, 第 1 回水産海洋学会座談会, web, 2021 年 1 月 30 日.
- (8) 藤原邦浩 (2021) ハタハタの漁況と調査結果, 令和 2 年度日本海ブロック資源評価担当者会議, 新潟市, 2021 年 2 月 9-10 日.